

成果の説明書

(氏名) 飯島明宏	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <ul style="list-style-type: none">● 環境省推進費による研究成果のとりまとめ 「革新的モデルと観測・室内実験による有機エアロゾルの生成機構と起源解明」 国立環境研究所、群馬県衛生環境研究所との共同研究のなかで、有機マーカ成分を用いたレセプターモデルによる有機エアロゾルの起源推計を行った。主な成果について以下の通り発表した。 <ol style="list-style-type: none">(1) 熊谷 貴美代, 齊藤 由倫, 田子 博, 飯島 明宏, 渡邊 雅子, 佐藤 圭, 森野 悠: 2018年夏季の関東郊外における人為起源・植物起源二次有機エアロゾルマーカ成分の挙動, エアロゾル研究, 2022 (印刷中) .(2) Kei Sato, Fumikazu Ikemori, Sathiyamurthi Ramasamy, Akihiro Fushimi, Kimiyo Kumagai, Akihiro Iijima, Yu Morino: Four- and Five-Carbon Dicarboxylic Acids Present in Secondary Organic Aerosol Produced from Anthropogenic and Biogenic Volatile Organic Compounds, Atmosphere, 12(12), 1703, 2021.(3) 飯島明宏, 渡邊雅子, 森野悠, 佐藤圭, 熊谷貴美代, 齊藤由倫, 田子博, 池盛文数, 星純也, 齊藤伸治: レセプターモデルによる有機エアロゾルの起源推計と手法間相互比較に基づく信頼性評価, 第 62 回大気環境学会, 2021.(4) 佐藤圭, Sathiyamurthi Ramasamy, 池盛文数, 伏見暁洋, 熊谷貴美代, 飯島明宏, 森野悠: チャンバー実験に基づく新たな人為起源二次生成有機エアロゾルマーカ成分の評価, 第 62 回大気環境学会, 2021.(5) 熊谷貴美代, 齊藤由倫, 田子博, 飯島明宏, 渡邊雅子, 佐藤圭, 森野悠: 2018 年夏季の関東郊外における人為起源・植物起源二次有機エアロゾルの挙動, 第 38 回エアロゾル科学・技術研究討論会, 2021.(6) 佐藤圭, Sathiyamurthi Ramasamy, 池盛文数, 伏見暁洋, 熊谷貴美代, 飯島明宏, 森野悠: 人為および生物起源 VOC からの二次有機エアロゾル中に存在する直鎖状 C4-C9 ジカルボン酸類, 第 38 回エアロゾル科学・技術研究討論会, 2021.	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none">● 招待講演、学外委員 他 <ol style="list-style-type: none">(7) コオロギプロテインの栄養/環境的付加価値と SDGs との親和性, ifia Japan 注目の New プロテインの開発と応用技術 2022, 横浜市, 2021.5.12.(8) 環境学習の進め方 ~関心から理解へ、理解から行動へ~, ぐんま環境学校 (エコカレッジ), 前橋市, 2021.6.5.(9) コオロギプロテインに対する消費者心理と市場の反応, 食品開発展 2021 記念セミナー・フードテックへの挑戦, 東京, 2021.10.14.(10) 代替たんぱく源としての昆虫の利用可能性と今後の研究開発動向, バイオインダストリー協会セミナー, オンライン, 2021.12.3.(11) ターゲットマーケティング研究を起点とした昆虫由来食品の社会実装への挑戦, 江崎グリコ株式会社セミナー, オンライン, 2022.1.24.(12) 環境省 PM2.5 排出インベントリ及び発生源プロファイル策定検討会 委員(13) 環境省 PM2.5・Ox 対策総合推進検討会 委員(14) 高崎市 環境審議会 委員(15) 高崎市 廃棄物処理施設専門委員会 委員(16) 高崎市 水道事業及び公共下水道事業運営審議会 委員(17) 藤岡市 環境審議会 委員(18) 富岡市 汚泥再生処理センター施設整備総合評価審査委員会 委員	

- (19) 群馬県 環境審議会 委員
- (20) 群馬県 環境影響評価技術審査会 委員
- (21) 日本自動車研究所 二次粒子研究会 委員
- (22) 日本自動車研究所 疫学研究会 委員

3 次年度以降の計画・抱負

- 独立行政法人都市再生機構との共同研究

2022 年度より、「シェアリングエコノミー創出による地域活性化策の包括的評価手法の確立」と題した共同研究を開始する。まず、まちづくり政策の効果測定をデータサイエンスにより実現する方法の検討を進める。